西南暖地におけるパン適性小麦の安定化栽培技術に関する研究

高知大学　農学部　教授　石川　勝美

○研究シーズ概要

小麦は通常11～12月に種を播き、6月に収穫する作物ですが、収穫期に雨が多いと病気が発生しやすく、良質で安定した小麦の栽培は容易ではありません。とりわけ高温多雨な高知県は「小麦生産の不適地」とされてきました。そこで、高知大学では、出穂特性や耐寒性に着目して「乾燥した1月に収穫できる小麦」の開発に取り組み、平成21年に夏に種を播き、1月に収穫できる小麦品種「ふゆのめぐみ」（平成21年10月、登録第5276112号）の開発に成功しました。

“夏播き小麦”は、乾燥して冷涼な冬に収穫できるため、除草剤の散布や病害虫防除が省略できます。これによりパン・麺類に適した高品質小麦の安定生産が実現しました。

本栽培技術は、作付け時期が通常とずれているため、水稲跡地、畑地の有効利用が可能となり、連作障害の回避や輪作の導入にも繋がるため地元農業関係者の期待は大きいものがあります（平成21年9月15日付、高知新聞記事、平成成22年1月27日付、朝日新聞記事等）。

高知大学の先進的な研究開発は、わが国食料自給率の向上に繋がる模範的な取り組みとして高く評価され、農林水産省の「FOOD ACTION NIPPON アワード2009」において、研究開発・新技術部門の優秀賞を受賞していています。

小麦の生育状態

“夏播き小麦”で作った「うどん試食会」

＜応用範囲／今後の展望＞

研究成果を地域に普及発展させるため、産学官民連携の取組みにより実施し、開発した夏播き小麦の特性を活かし、パン・麺類適性小麦の高品質安定生産の実証を図るとともに、国産小麦の高度利用として要望が高い、夏播き小麦の機能性とそれを活かしたパン・麺・焼酎等の高品質製造法の用途開発及び商品開発に着手しています。